生活科のあり方を求めて

大脊戸　若光　　弘法泰英
檀上健二　　中神裕子
吉浦公子　　真田美智子

1．研究経過

1988. 2	• それまでの「総合学習」の研究をもとに，教育課程審議会の「生活科」試案を受けて，校内授業研究「ひなまつり」（2年生）を実施
88. 4 88. 4	• 本校における生活科について「基本的な考え方」を全員で検討し，実践と研究の方針を決定 • 「生活科年間指導計画案」作成
88. 4	• 第1学年と第2学年において，週4時間の「せいかつ」の時間を実施開始し，「理科」と「社会科」を廃す
88. 6	• 本校，第94回研究会において，低学年5学級の生活科学習を公開 「じぶんだけのきをつくろう」……（1年1組） 「しののめしょうがっこうをたんけんしよう」……（1年2組） 「気もちのよい教室にしよう」……（複式低学年） 「おさんぽ」……（2年1組） 「わたしとつたえるもの」……（2年2組）
88. 6	• 本校，第94回研究会において，生活科研究協議会を開催 （指導助言者　広島大学教授　溝上　泰　先生）
88. 7	• 第1学期の「学習診断表」において，「生活科の評価欄」をおく
1988. 12	• これまでの研究を受けて，校内研究授業「転校した友だち」（複式低学年・1年・2年）を実施

2．「生活科」によせる私たちの指導理念

現在の教育課程や指導法は，未来を創る子どもたちを育てるにふさわしいものであろうか。このような視点から，子どもたちの成長の実態を見直すと，「生活科」のあり方が明らかになってくる。

6年生の理科の単元に「電磁石」がある。子どもたちは，電磁石による「ベル」の製作に熱中して取り組み，少しでも早く完成させて，自分のベルの音を鳴らそうとする。A君は，真面目で一生懸命物事に取り組む子であるが，配線や組み立ての作業に手間取り，ベルの製作に四苦八苦していた。友達の手助けを何回も受けてやっと完成にこぎつけた。ところが，A君は，塾の理科のテストではトップクラスなのである。一例にすぎないが，A君のようなアンバランスな実態は，現在の子

ども達の多くが内包していると考える。

社会生活の効率化・機械化・合理化や進学競争等による学力観のかたよりは，子どもたちの「生きる力」を育てることに逆行している側面が多い。かって，家庭生活や地域社会にあった生活するための作業を子どもたちは，手伝う活動の中で習得した。そして，協同や工夫する心を身につけてきた。かつて，「生活すること」は「学ぶこと」にもなった。現在，「学ぶこと」は生活から遊離し，子どもは，効率的に与えられる知識の一方的な受け手となっている。

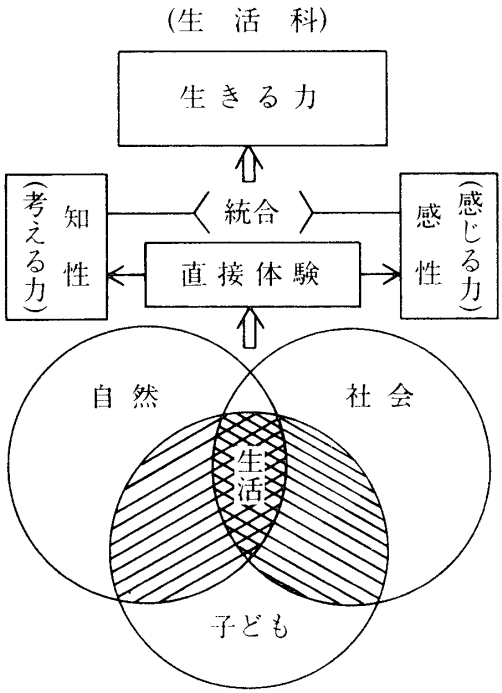
以前，子どもたちは，自分たちの生活圏をもち，冒険をつくり出し，みんなで乗り越えることによって成長してきた。子どもは，たて割の集団の中で，野をかけまわり，高い土手から飛び降りたとき，入り江の対岸まで初めて泳ぎ切ったとき，野鳥を自分たちのしかけで初めてとらえたとき，遠くの村まで遠征し，別の社会があることを感じたときなどに自然や社会を実感した。そこには大人にあてがわれたものではない子どもの本性に根ざした生活があった。以前の子どもの本性に根ざした生活について次のような条件づけをすることも出来る。

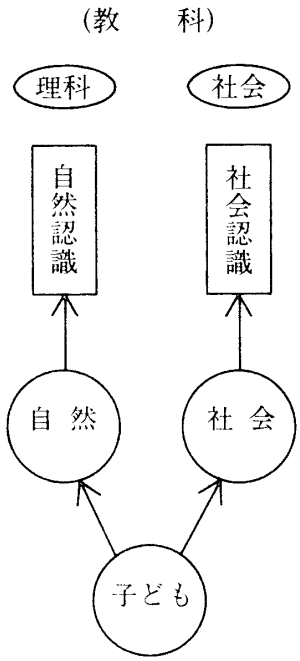
①子ども達は，自分達の生活圏をもっていた。
②子ども達は，自分達の集団をもっていた。
③子ども達は，自分達で遊びをつくり出す力をもっていた。
④子ども達は，自分達の生活に対する他からの抑圧に対して抵抗する力を持っていた。

しかし，今日では，人為的，人工的，機械的な環境の中に，人間の生活が押し込められている。大人にとって便利で合理的であっても，育っている子どもたちの成長過程にとってはマイナスである。生活科の展開にあたり，「成長のための，子どもらしい生活を少しでも取り戻してやりたい。」ということが私たちの基本的な願いである。自分自身の手足を使い，自分の意志や感情で生きて行こうとする力を育てる場としての生活科を考えている。

〈生活科の指導理念〉

子どもたちに，「生活」をもたせ，子どもたちの価値観を軸にして学習展開を図る。その生活の場で，生きる力（知性と感性の統合）を自らの手でつかみとらせる。





3.「生活科」研究の方針

昭和42年の教育課程審議会の答申から，現在の「生活科の新設」に至るまで，低学年教育に一貫して求められているのは，次のことがらである。

①発達段階から考え，教科の総合化の必要性があること
②具体的な活動や体験を通した学習を重視すること
③幼稚園教育との円滑な接続の必要性があること
④生活上必要な習慣や技能の習得の必要性があること
⑤国語や算数などの基礎学力を重視すること

本校においても，以上のことがらを考慮し，本校児童の実態をふまえて，発達段階に応じた低学年教育の在り方を実践研究してきた。これまで，本校が実践してきた「プレイング学習」や「総合学習」は，上の①～④にかかわる学習活動であり，「生きる力」の概念もこの中から生まれたのである。したがって，生活科の実践研究にあたり，次の三点を研究の立場として教官相互に確認している。

①生活科の実践を，これまで本校が実践してきた総合学習の積み上げをもとにして研究する。
②指導要領案の「生活科」の内容を仮説のひとつとして参考にし，実践化を図る。
③低学年における「生活科」に限らず，小学校6ヶ年を見通した望ましい教育課程の在り方を研究していく。

4.「生活科」の実践

実践にあたって，「生活科のねらい」「生活科の特色」「教材選択の領域」「教材選択の視点」「生活科指導者としての意識」「子どもの活動評価の観点」について次のようにまとめている。

(1) 生活科のねらい

具体的な活動や体験を通して，自分と身近な社会や自然とのかかわりに関心をもち，自分自身や自分の生活について考えさせるとともに，その過程において生活上必要な習慣や技能を身に付けさせ，自立への基礎を養う。

（学習指導要領案より）

(2) 生活科の特色

① 生活課題そのものの学習。
- 子どものくらしから現実に派生するものである。
- 自己の生活にかかわるものである。
- 教科，領域，道徳や，これまでの生活経験から得た，あらゆる知識技能を使って解決可能なものである。

② 直接体験を重視する。

体験……個々の主観のなかに直接的に見いだされる意識内容意識過程をいう。それは経験と比べて，個々の主観に属するものとして特殊的，人格的であり，いまだに知性による加工，普遍化をへていない点で客観性にとぼしく，また具体的，情意的である。（哲学辞典）

- 知的理解を助ける手段としてではない。
- 体験とは，対象に個性的・主観的にかかわっていくことであり，普遍性・客観性への志向ではない。
- 体験そのものが学習内容でありねらいである。

③　自分とのかかわりを重視する。

- 客観的に対象をながめるのではなく，主体的にかかわっていく。
- 観察対象としてみるのではなく，自分も環境の構成員としてみていく。
- 生活の事実を自分の論理で意識的にとらえさせたい。

④　生活上大切な習慣や技能を育てる。

- 受身ではなく主体的，能動的に活動させる。

(3)　教材選択の領域

子どもの生活圏にみられる興味・関心の領域で，教材選択の核となるものである。但し，扱いにおいて枠をもたせるのではない。子どもからみれば，これはすべて有機的な関連をもって存在する。

ア　季節にかかわるもの		
	（例）春をさがそう	みのりの秋
イ　行事にかかわるもの		
	（例）ひなまつり	たんじょうかい
ウ　遊びにかかわるもの		
	（例）どろんこあそび	ゆうえんちづくり
エ　人間にかかわるもの		
	（例）先生さがし	おうちの人
オ　製作にかかわるもの		
	（例）カレンダーをつくろう	たのしいおもちゃ
カ　施設や設備にかかわるもの		
	（例）学校のへやさがし	ちかくのこうえん
キ　動植物にかかわるもの		
	（例）このごろのむし	はたけでつくろう

（1988．4月現在）

(4)　教材選択の視点

①　子どもの力で学習の方向性がつかめるか。　（教材の純化）

②　子どもの考え方，感じ方が深められるか。　（教材の深化）

③　子どもが意欲的に活動できるか。　（教材の意欲化）

(5)　「生活科」指導者としての意識

①　教師が予定していた結論に到達することを急ぐのではなく，個々の子どもの個性的な活動を重視し，いく通りもの見方や考え方，感じ方が子どもから出てくることを尊重したい。このことは，中高学年における問題解決学習の態度化への素地ともなる。

②　子どもの自発性，自主性を尊重した活動の場を構成したい。

◦活動のよろこびが味わえる教材との出会いの場をつくる。
◦個々の子どもの個性的な活動を予測した配慮する。
◦即応性のある素材の準備する。

③　個性的な活動意欲を重視した指導の展開をしたい。

④　目標先行型の授業（目標→教材→活動）から教材優先（教材→活動→目標）はへの意識転換を図りたい。

(6)　子どもの活動評価の観点。

①　自分の身のまわりの変化の様子やできごとに関心をもって生活できる。

②　目や手や体を使って，身のまわりの変化やできごとにはたらきかけることができる。

③　見たり感じたりしたことをよく考えて工夫しながら表現できる。

④　友だちと支え合って，自分の役割を考えながら行動できる。

学習診断と評定　　（本校の保護者向けの診断票より）

教科	診断の観点	評定 I		評定 II		評定 III	
国語科	ことばの基礎力がある。						
	できごとの順序をたどって表現することができる。						
	文章や話の順序に気をつけて読んだり，聞いたりすることができる。						
	文字をていねいに書くことができる。						
	国語に関心をもち，進んで取り組むことができる。						
算数科	用語・記号などの意味を理解している。						
	計算が速く正しくできる。						
	文章題などを解く力がある。						
	数量や図形について意欲的に取り組む。						
生活科	自分のまわりの変化の様子やできごとに関心をもって生活できる。						
	自然や身のまわりの事物・減少に多様なはたらきかけができる。						
	見たり感じたりしたことをよく考えて工夫しながら表現できる。						
	友たちと支え合って，自分の役割を考えながら行動できる。						
音楽科	拍の流れにのって，気持ちをこめて歌うことができる。						
	楽器に親しみ，拍の流れにのって演奏することができる。						
	音楽を楽しく聴き取ることができる。						
	音楽活動をする意欲がある。						
図工科	絵や粘土に自分の気持ちを込めていく姿勢がみえる。						
	自分のアイデアを達成するために，よく努力する。						
	意欲的に造形表現に取り組む。						
	準備や後片付けなど，きちんとすることができる。						
体育科	いろいろな運動を楽しく行うことができる。						
	きまりを守ってなかよく運動することができる。						
	健康・安全に留意して運動することができる。						

（生活科は社会科・理科の内容を含んでいます。）

5．生活科の授業展開の実際

実践例1　第2学年「ひなまつり」　昭和63年2月18日

◎ひなまつりについて調べたり，体験したりする活動を通して，行事の楽しさや自分とのかかわりに関心をもたせる。

- ひなまつりについて調べ，友達と一緒になった楽しむことができる。
- ひなまつりに参加するために必要なものを，手や道具などをうまく使ってできる。
- 自分が周りの人々から大切にされ，期待されて大きくなったことに気付き，感謝する気持ちが育つ。
- 活動の中で自分の役割りを持ち，進んで取り組んだり，協力したりできる。

〔活動の展開〕

ひなまつりって何だろう。（第一次（4時間））→ わたしたちのひなまつりを準備しよう。（第二次（3時間））→ わたしたちのひなまつりを楽しもう。（第三次（2時間））→ 自分の家でもひなまつりをしよう。（第四時（1時間））- - 家庭生活

〔本時の展開〕……（第一次第3時）

○ひなまつり調べの発表を通して，古くから伝わるひなまつりに触れる。

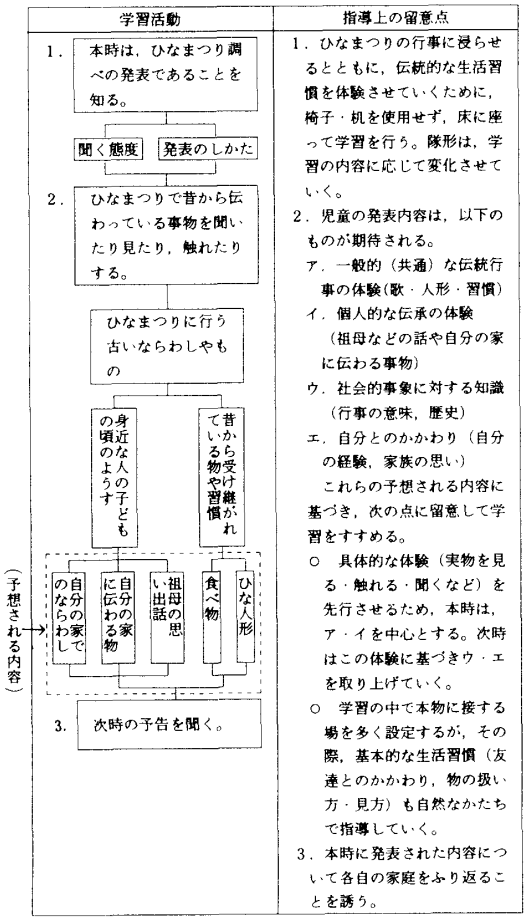
本時は，生活科の学習活動を志向して，最初に実施された校内研究であった。分析の視点にそって協議内容を述べる。

① 生活科としてふさわしい体験活動が多くみられた。（ア．～ク．等）

ア．古いひなまつりの歌を歌う。

イ．本物のひな人形を，見る，さわる，並べる，人形になる。

ウ．古いひな人形（積木など）を見る，知る。



エ．白酒を見る，におう，その味をきく。

オ．昔のひな祭りの写真，字の紙芝居を見る。

カ．かき餅（生，揚げた物）を見る。

キ．おばあちゃくの話を聞く。お重や昔の遊び道具の絵を見る。

ク．ニッケ飴を見る。

② 社会科や理科の学習との相異点が明らかになってきた。（ア．～ソ．等）

ア．何かの問題が，分かる，出来るという目標ではない。

イ．体験を増やすようなもの？

ウ．思考はなくてもよいのでは？

エ．思考の筋道で流れていないのでは？

オ．ア～エのことから，あきる子，分からない子は出てはないのではないか？学習が楽ではないだろうか？

カ．板書がなかった。

キ．教師は何を体験させるかしっかり考えなければいけない。

ク．体験が3年生以上にどのようにつながるのだろう。

ケ．幼稚園にある「生活」に近いものではないだろうか。

コ．発表は，これまで言葉や文字などが中心であったのに対して，実際に活動するようなものが多かった。

サ．「なぜ」「どうして」というような思考をうながすような発問がなかった。

シ．体験も多く，「ひなまつり」という社会事象にも関心を持ったと思われるが，「自分と社会とのかかわりから自分の生活について考えさせる」ために，例えば，「昔からなぜこのようなひなまつりをして来たのだろう？」というような発問をすることも必要ではないだろうか？

ス．最初から「ひなまつり」をする方が，子どもも興味を示し，教師にとっても簡単ではないか。あまり組織してする必要はないのでは？

セ．長い時間（10時間）はかけずに２～３時間くらいで単元を構成する方が良いのでは。10時間という長い流れは，これまでの教科的な発想があるのではないか。

ソ．各自で課題を持って調べている。調査の段階までは，子どもの意識としては，これまでの教科とあまり変わらないのではないか？

以上，これまでの社会科や理科の授業と比較しながら，本時を検討する意見が多く出された。この実践が，生活科学習の具体的イメージづくりの契機となった。生活科をこれまでの教科学習と比較的に表現したものが次表である。

生活科	情意的	拡散的	行動的	自己評価的	生活的	**子どもがつくる学習**
他教科	認知的	集中的	言語的	他者評価的	系統的	**教師が計画する学習**

③　教師の役割もこれまでの教科学習と異なってくるようだ。

ア．指導的でなく，発問がなかった。

イ．教師は進行係で助言者のようなものか？

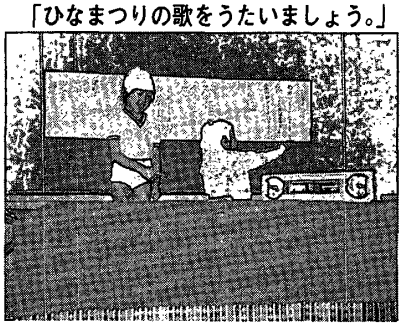
ウ．活動のための場作りは，しっかりしてやる必要があるだろう。

エ．教師は，ひとりひとりの活動をしっかり見てやる必要がある。

オ．子どもたちの活動の質を評価してやらねばならない。

カ．その場合，教師の価値感で評価しないで，子どもたちに学ぶ姿勢が大切だろう。

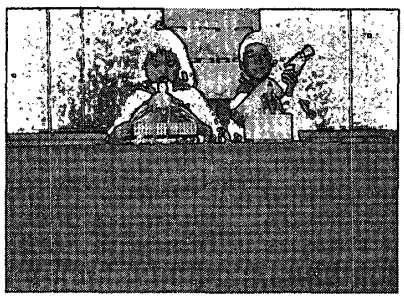
「ひなまつりの歌をうたいましょう。」



「本物のひな人形だ！」

「まあ！白酒の入れものね。」

「めずらしいひな人形です。」



「白酒！おいしいね。」

「昔のお話を聞こう。」

実践例2　複式低学年（1・2年）「転校した友だち」　昭和63年12月8日

(1) 実践にあたって

人数の少ない複式学級の子どもたちにとって，子ども同志の関わりは深いものがある。10月中旬，2年男子5人のうち1人が東京へ転校していった。折りにふれては出されるその子の話に，心のつながりの深さを今なお感じている。そんな今，子どもたちの現在の興味・関心を学習課題として活動していく教科である「生活科」において，「転校した友たち」の単元をとりあげることは，適機を捉えたものであり，意欲的な活動につながるものであると考え，本単元を実践した。

本学級の子どもは，病気になった教生の先生に手紙を出すなど，自分の気持ちを文字に託して伝えることは，何度か経験している。しかし，はっきりと口頭で伝えたり，積極的に活動をして伝えるという意欲に乏しい面と，意欲はあるが伝え方が未熟な面がみられる。そこで，子どもの意欲を喚起しかつ積極的な活動を引き出すビデオメッセージ作りをとりあげた。

授業分析を行なった本時は，ビデオメッセージ作りの活動にはいる前の話し合いの時間である。転校した友たちに自分たちのことを伝えたいという意欲を高めるため，電話を通した子どもの声を聞かせる。その後，何をどのように伝えていくか話し合うが，転校した友たちに対する個々の子どもの心のレベルの違い・自分はこうしてもらうとうれしいたろうなというような個の経験の違いからの考えを大切にしながら，伝えていくものと方法を考えていく。

また，活動グループは，子どもたちとの話し合いの中で，学年・男女を問わず伝えたい内容により作っていく。これまでは，グループというと1・2年男女をまじえたグループで2年生が常にリーダーとして活動してきたが，今回はそういう規制をなくして，自分の伝えたいものを中心にすえたグループ作りをすることにより，次時のメッセージ作りの意欲につなげていくものである。

(2) 実践の概要

① 指導目標

1．自分たちの気持ちを伝える方法には，様々な方法があることに気付かせる。

2．ビデオメッセージを作らせることにより，みんなで協力して活動する楽しさを経験させる。

3．人と人との心のつながりを大切にしようとする心を育てる。

② 指導計画…7時間

第一次　自分たちのことを伝える方法を考えよう。…1時間

第二次　ビデオメッセージを作ろう。……5時間

　　内容の話し合い（1）

　　メッセージ作り（3）

　　鑑賞　　（1）

第三次　メッセージをおくろう。……1時間

③ 指導の実際

ア．自分たちのことを伝える方法を考える場……第一次

2年生のS君が，11月中旬に埼玉県川口市に引っ越していって，半月。子どもたちが心待ちにしていた手紙が届いた。子どもたちの前におもむろに立ち，「今日は，みなさんにとって，とても嬉しいことがあります。」と声をかける。「わかった。○○だ。」と早合点する子。嬉しそうににこにこする子。何だろうというように友だちと顔を見合わす子。誰かが「シッタンからの手紙じゃ。」サッと手紙を出してみせると，「わあ」「やったあ」と，全員大喜び。少し間をおいて読み始めるとシーンとなり，一生懸命聞いている気持ちがひしひしと伝わっ

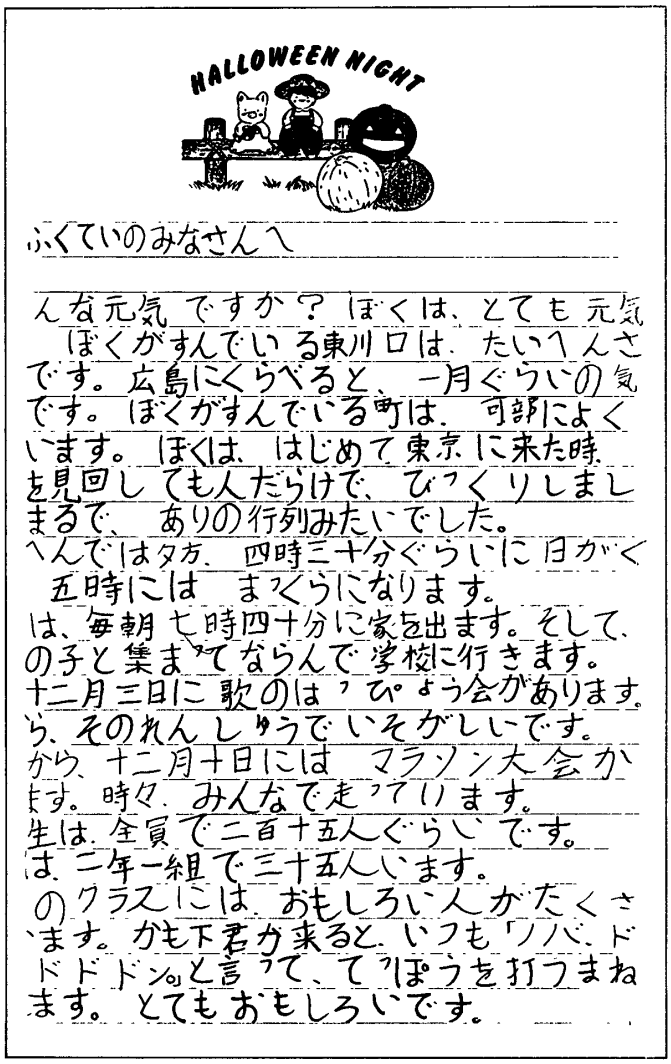
てくる。元気で頑張っているＳくんのようすに，思わず笑いながら，手紙を聞き終わった子どもたちは，どの子もとてもいい顔をしている。

「どうしようか。」と声をかけると，一斉に手が挙がり，声が出る。出た意見は次のとおりである。

- 返事を書く（はがき・手紙）
  それぞれ書いてそれぞれ出す。
  一まとめにして出す。
- 絵をかいて送る。
- プレゼントを作って送る。
  （クリスマスが近いからクリスマスプレゼントにする）
- カセットテープに声を入れて送る。

どの意見にも共鳴するところがあるらしく，子どもたちはうなずきながら聞いている。上のいくつかを組み合わせた意見も出てきて話し合いは，盛り上がった。

「もしみんながＳ君のように転校したら，どうしてもらったら一番嬉しいかな。」と問いかけると，「あのう，これはできるかできないかわからないけど……。」と言いながら，出てきた意見が，ビデオをとって送るということ。すると，「できるよ。Ｓくんちにビデオがあったの。ぼく知っているよ。」「学校で先生がビデオをとってくれたりしたことがあるけん，大丈夫よ。」「Ｓくんちのビデオは，ベータか，VHS か調べんにゃ。」という子まで出てきて，あっという間に，子ども達がやる気になってしまった。ビデオメッセージということが子どもから出てこなければ，教師の方から出そうと用意していたのだが，さすが現代の子である。全員一致で，ビデオメッセージを作ることが決まった。



（Ｓくんからの手紙）

イ．ビデオメッセージの内容を話し合う場……第二次　第１時（本時）

本時のねらい

- ビデオメッセージの内容を話し合う活動を通して，心を伝えようとする意欲や活動への見通しをもたせる。
- グループ作りの活動を通して，学級の一員としての自覚を深める。
- 人と人との心のつながりを大切にしようとする心を育てる。

準備物

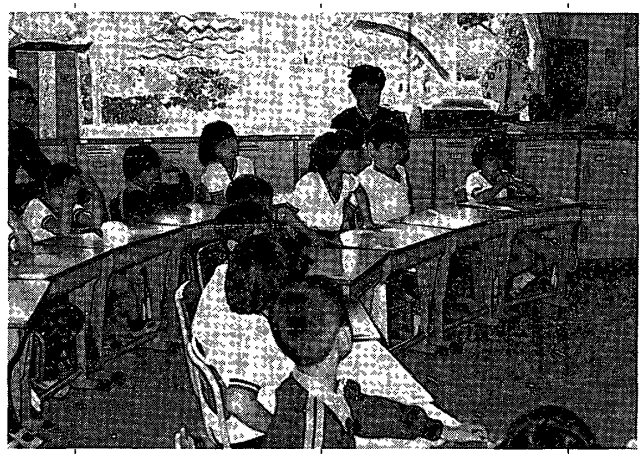
テープレコーダー，写真，短冊

指導過程

学　習　活　動	教育的価値	指導上の留意点
1．転校した友たちの声を聞く。	・心のつながりを思いおこす。	・顔写真と電話の声により，転校していった友だちのことを思い出させ，自分たちのことを伝えたいという意欲を高める。
2．ビデオメッセージの内容を話し合う。 （何を） できごと－想画大会 ミュージカル 懸垂テスト…… 勉強－かけ算，かたかな 遊び－下溶岩，なわとび （どのように） 絵・実物・話す・歌う 実際にやってみせる……	・自分の伝えたいことを心に持つ。 ・他の子の伝えたいことを聞き，様々なものがあることに気付く。 ・転校した友だちの気持ちになって伝えたいことを考えることができる。	・全員の意見を尊重するため，短冊に書かせる。 ・たた自分が伝えたいことを発表させるたけてなく，「転校した友だちは，どうすれば喜んでくれるか」を考えた意見を出させる。 ・映像を生かした方法を考えさせる。
3．伝えたいことがらによりグループをつくる。	・短冊を分類してグループを作ることができる。	・自分が伝えたいことを中心としたグループ作りなので，結果的に一人て伝えるという子がいても構わないこととする。 ・時間があれば，グループに分かれて，具体的な方法を考えさせたりする。 ・考えたグループから，小黒板に計画を書く。
4．次時の活動を約束する。	・自分たちの伝えたいことがはっきり伝わるように，工夫しようとする意欲をそれぞれが持つ。	・次時は，メッセージを作っていく活動であることを伝える。

授業記録　生活科　「転校した友だち」

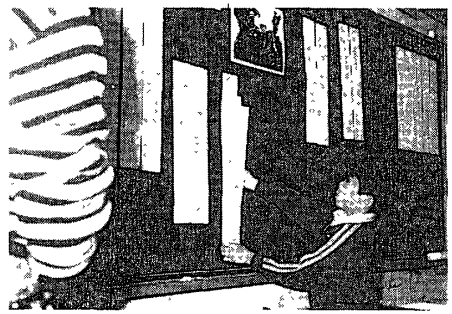
学習の流れ	時間	教師の発問や働きかけ	全体の様子 ＊児童の反応を中心に	児童の反応 1年生　男子	1年生　女子	2年生　男子	2年生　女子
1．転校した友だちの声を聞く。	00	今日は転校したお友だち…へ「ビデオメッセージ」をおくるための話合いをしましょう。S君はどこへ…そう，埼玉県の川口市というところでしたね。	「S君」 「東京」 地図で説明	とおいい			
		ここが広島よ・ずーといってね。ここよ。					
		あんな遠いところへ行ったんですね。	列車や飛行機で…	東京と聞いて身を乗り出すC_1君		遠いねーとB_2君	
		会おうと思っても，なかなか会えません。	「船ならいけるかもしれん」	「えー」B_1君	注目している	船・列車A_2君	
		先生もS君と会いたいなあと思って，お話したくて電話しました。実はね皆さんにも聞かせてあげようと思って，その時のテープを聞いてください。	「電話した」			電話をした	
		声だけさみしいでしょう。そこで（写真）も用意しました。遠いから静かに聞いてね	「いもほり写真」 「白川君もいる」	うれしそうに写真を見る	うれしそうにしているにこにこしているB_1さん	うれしそうにしているいもほりじゃとC_2君 転校した二人？A_2君	うれしそうにしている
	04	＊テープの声＊ みんなでお返事を書こうと思うんだけど，どんなことが知りたい？ ・学校で何しているか。 ・副議長にはだれがなったか。 ・C_1君が転勤したらパートナーはどうなるか。 ・みんな仲良くしているか。 ・体育の時B_1君がいつもふざけていたけどふざけていないか。	「もう知っとる」 笑い	耳に手をあてて聞くA君。			しっかり聞いている
	05	最後にひとこと ・「みんながんばってください」 ＊＊（1分50秒）＊＊ 誰が出ていましたか。 そうね「B_1君」だね，パートナーだから心配しているんだね。 S君はいろんなことを聞きたいんだね。みんなも伝えたいことが… たくさんあるね。	「S君と先生」 「B_1君」 「いっぱいある」				
2．ビデオメッセージの内容を話し合う。		それではどんなことを伝えたいか，話してください。どんなことを伝えたいですか？ きょうあったことを伝えたいんだね。		C_1君B_1君さっと手をあげる。 E_1君「懸垂大会のことです」 B_1君「鉄棒であしぬきができること」	すぐ挙手B_1さん	B_2君「あさのつどいのことです」	E_2さん以外4人挙手 C_2さん「体育の時やっているなわとびのことです」 （個への配慮か？）

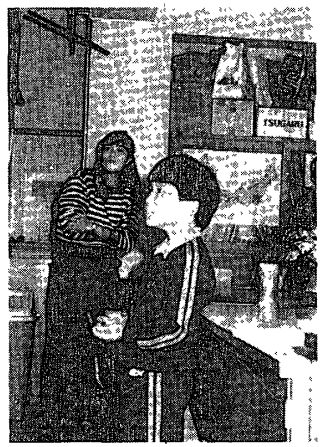


学習の流れ	時間	教師の発問や働きかけ	全体の様子 ＊児童の反応を中心に	児童の反応 1年生　男子	1年生　女子	2年生　男子	2年生　女子
伝えたいこと	07	B_1君の体育のことを心配していたね。 劇を見ていなかったんたね。 そういえは，下溶岩てよく遊んていたね。		A_1君「チキチキハンハンのこと」		C_2君「下溶岩のことてす（遊ひ）」 毎日しとったもん。	
					A_1さん「紙版画のことてす」		A_2さん「音楽のことです」
		もうすこしくわしく。いま何を習っているの？	「おうまはみんな」	C_1君「避難訓練のことてす」			
					C_1さん「ふしきなたけこのことです」		B_2さん「かけさん九九のことてす」
		今習っているんたね。	「おとってあける」	D_1君「なわとびのこと」		C_2君「みんなで歌を歌う」「今習っている歌」	
		同してもいいてすよ。			D_1さん「かけっこのことです」	B_2君「一年生の時野球をやったこと」	
		うわあB_2君いっぱいあるね。			C_1さん「今遊んでいること」	D_2君「想が大会のこと」 B_2君「なわとびで運動場を2，3周まわったこと」	A_2さん「なわとひのがんはりカードをもらったこと」
	10	S君はその時いなかったっけ，いなかったね。					D_2さん「チキチキハンバンの劇のことてす」
				C_1君「体育の時，グラントを二周したこと」	A_1さん「朝なわとびをしたこと」		
		いっぱいあるね。それでは二人がまとめるね。 D_1君は日記にコツもかいてたよね。 しゃあね。自分はとんなことを伝えたいか一番伝えたいことを書いてくたさい。書いたらここにはって，誰のかわかりやすいように「何なにしたこと○○○」と書いてください。		D_1君「体育の時間てあやとひかてきたこと」			
						C_2君「てもはすれるのかある」	
・カードに記入する		磁石はむずかしいものもありますから，書いてください。たてに書いてください。 さあ，考えてください。いっぱいある人はとれか一つに決めてください。		C_1君「磁石てはれはいい」			
		「はい，はじめてください」 「てきた？」はいてきた人は前に出てください。		すくに書き始めた○ C_1，B_1，D_1 思うようにいかない△ A_1	○C_1，B_1 △E_1，なかなか書き出せないて，黒板のカードを見て記入する。	○A_2，D_2 △C_2，B_2 下谷君かいる時のことてもいいですか？	○C_2，B_2，D_2 △E_2　悩んてB_2さんを見てなわとびを記入する。

学習の流れ	時間	教師の発問や働きかけ	全体の様子 ＊児童の反応を中心に	児童の反応 1年生　男子	1年生　女子	2年生　男子	2年生　女子
	17	もう書いた人はお友達がどんなことを書いているか，よん読んでみてね。 お友達がどんなことを伝えたいか，はじめから読んでいったね。 ２年生はさすが一生懸命みているね。		＊発表と違った子 A_1チキチキ→足抜き C_1避難→ひっこし 走る	D_1かけっこ→想画大会 C_1たけのこ→音楽の歌 遊び A_1紙版画→紙版画 なわとび	C_2下溶岩→下溶岩 歌 B_2朝のつどい→いもほり 野球 走る D_2想画→あやとび 手悪さ・A_2，B_2君	A_2音楽→九九 なわとび B_2九九→後ろあや
	20	お友達がどんなことを伝えたかったか，ちょっとみていきましょうか。 「いもほりのこと」 おいもがどうなったかを知らせてあげたいね。 ああ，伝えたいことがいぱいでてきました。 今回はお手紙ではなくて「ビデオメッセージ」だから，お手紙で伝えられないことも工夫すると伝えられるんですね。どんな工夫をして伝えようか考えている人。 さっき先生が地図でやったように教えてあげるいい考えですね。 　いいですよ。先にA_2君が手をあげていたのでA_2君。 そういう送り方の工夫もあるね。 ほかにありますか。	一斉に読む 教師は名前を読む 「食べた」 「給食にでたこと」 「ビデオメッセージ」 ２年C君「ビデオの回りの工夫でもいいですか」	A_1，D_1君いものことを思い出す。 C_1君「地図を見せて引越しする所を教えてあげる」 サインペンをさわっている	カードをよむA_1さん サインペンをころがす。	A_2君「新聞を前に出してS君に見せる」 C_2君「クリスマスだからサンタクロースのかいてある紙で包む」 B_2君「忘れられないように自分の名前を書く」	頬杖をついているE_2さん
・どのように伝えるか	25	書くだけでなくて，実際に作るときも自分の名前を……「書く？」 言ったら，そのまま伝わるんですよ。 テレビで見れるの，言ったことがそのまま伝わります。地図や新聞を見せたのもそのままできるよ。 他に何かないかな？この人はどうするのかな，A_2さん 「九九が早く言えるようになったこと」を伝えるにはどうしたらいいかね。	「書く」「言う」				A_2さん「初めに九九を言いますといって九九を言う」

学習の流れ	時間	教師の発問や働きかけ	全体の様子 ＊児童の反応を中心に	児童の反応 1年生　男子	1年生　女子	2年生　男子	2年生　女子
		A_2さんも頑張ったんですね。「初めに九九を言います」といって九九を実際に言うのもいいですね。 なわとびのひとはとうするの？ D_1君どうしようと思っていますか。 そういうの？あやとびのことだったよね。 あやとびができるのを伝えるにはとうしたらいいてしょう。 S君かD_1君はなわとびかうまいんたなあとわかるようにするにはとうしたらいいかね・だれかわかりますか？		D_1「長くてきるようにする」 同してす。	A_1「A_2のおねえちゃんみたいにあやとびを始めますといってする。」 C_1「もっとてきるように練習して，写すときにもっとてきるようにする」		
	28	もっと練習して写すんたね。 他にありませんか。ちょっと前を見てください。地図を見せたり，新聞を見せたり何かを見せると言ったね。説明する，話す，実際にやってみる。他に送りかたの工夫もでてきましたね。 他に？ それでは，考えてみてください。 また考えてみましょう。今言いたい？では，A_3君					
	30	S君もいってましたね。みんなか元気てすか。なかよくしていますか？と言っていたね？みんなてうつるとてもいい案ですね。 それてはそれそれかやっていこうか？伝えるのを一人ひとりがやっていく？ いまC_2君かいったように仲間に分かれそうてすね。 だれか仲間にしてくれませんか？これは一緒にできそうよ。というように C_2さんしてみてください。 これは何て分かれているかわかりますか？ ほかにありますか？やかべくん	「おんなしのかある」 C_2さん黒板へ なわとびをわける 「なわとひ」 「あやとびかあるよ」			A_2「送り方の工夫てはなく」 「最後にみんなてうつる」 C_2「なわとびは仲間になりそう」	
3　伝えたいことからによりクループをつくる。							





学習の流れ	時間	教師の発問や働きかけ	全体の様子 ＊児童の反応を中心に	児童の反応 1年生　男子	1年生　女子	2年生　男子	2年生　女子
	33	何でわけたかわかる？					
			あしぬきまわり なわとび あやとびのところじゃ				
		A_1くん。					
		まだある？C_2君				C_2「勉強であったこと」 「できごとや遊び」	
	35	1年生にもきいてみようね。D_1君 わからなくなった？B_1君		「……」 「なわとびだけでまとめる」		「係，」 A_2君「じゃあ，ぼくはどうなるん。」 「体育のことでまとめている」	A_2さん「かえてもいいですか」
		A_2のおにいちゃんのわけかたわかりますか。	「鉄棒でわけた」			A_2「わけてみてもいいです」	
	37	じゃあちょっと見てください。このわけ方でいくと，なわとび，鉄棒のこと，できごとや遊び，三つだね。係のこと，勉強のこと，おおきくわけて5つのことに分けていいですか。たくさんすぎてやりにくいところはありませんか。	「ある」			C_2いっしょにやればいい	
		C_1君 縄跳びのことが多くてやりにくそうだ。 なわとびのひとに聞いてみましょう。	「7人じゃ」	「なわとびのことです。」			
		どうですか？一つのグループでやってやりやすい？	やりにくい。		サインペンをかじる C_1さん		
		なわとびと，あやとびにわけてみますがいいですか。	いいです。				
		1年生と2年生で分けようか。 そうだね，わけすぎになりそうだね。 できごとの中でチキチキバンバン，ひっこしC_1君やりやすい？	分けすぎになる			A_2 最高でも4ぐらいがいいんじゃない。	
	40	うんそうだね，一人でやったほうがやりやすいね。 できごとは，3人でもいいですか。A_2君は新聞だったから一人でいいですか。				B_2君しきりに手悪さ	

学習の流れ	時間	教師の発問や働きかけ	全体の様子 ＊児童の反応を中心に	児童の反応 1年生　男子	1年生　女子	2年生　男子	2年生　女子
	41	勉強のことはどうてすか。はい，A_1さん それては，一人てやりますか。 C_1さん C_1さんが歌を歌っているところをしたいんてすが一人てはむずかしいので，全員て協力してあけますか。てきますか。 それては，これはC_1さんを中心に全員か協力をする。 想か大会のことは大丈夫てすか。 伝えたいことかそれそれあるからね。しっかりてきるところはこれでいいかな。 九つくらいあったらいいかな	はらはらになった。 「9」 「喜ひすきて・　」	発表した時以外は手巻さの多い4人てした。サインペンて手に何か書く。	「勉強のことかいろいろ違うからやりにくい。」 「一人ていいてす」 「音楽みんなて歌おうと思うんてす」	A_2君「ひとりしゃものたりん」 C_2君「喜ふよ，喜ひすきるよ」 A_2君「喜ひすきて，天井をつきやぶるよ」	D_2さんマジックて遊ぶ
4　次時の活動を約束する		明日，生活の時間かあります。あさって土曜日も生活の時間かあります。あしたとうやって伝えるかしっかり考えて，あさってとろうとおもいます。C_1君は一番に明日とろうと思うんですか，明日しかないから，明日とろうと思います。とうですか。それでは，終わります。	C_1君は？				A_2さん 「なわとひにかえる」
	43						

〔児童の書いたカード〕

＊1年生＊

音楽の歌を歌っているところ	C_1さん	
引越しすること	C_1君	
想画大会のこと	D_1さん	◎
足抜き回りかてきたこと	B_1君	◇
懸垂大会のこと	E_1君	◇
なわとひかうまくてきたこと	E_1さん	
あやとひができたこと	D_1君	○
あやとひかはしめててきたこと	B_1さん	○
足抜き回りのこと	A_1君	◇
12月7日に紙版画を作ったこと	A_1さん	□

＊2年生＊

なわとひかうまくなったこと	C_2さん	□
あやとひをしているところ	D_2君	○
チキチキハンバンの劇のこと	D_2さん	◎
なわとひの後ろあやとびのこと	B_2さん	○
下谷君の大好きな下谷岩のこと（九九か上手にいえること）	C_2君	
なわとびであやとびかてきること	E_2さん	○
僕が新聞を書くのをかんはっていること	A_2君	
いもほりのこと（解説付き）	B_2君	◎
九九か速く言えるようになったこと（なわとひてあやとびかできること）	A_2さん	○

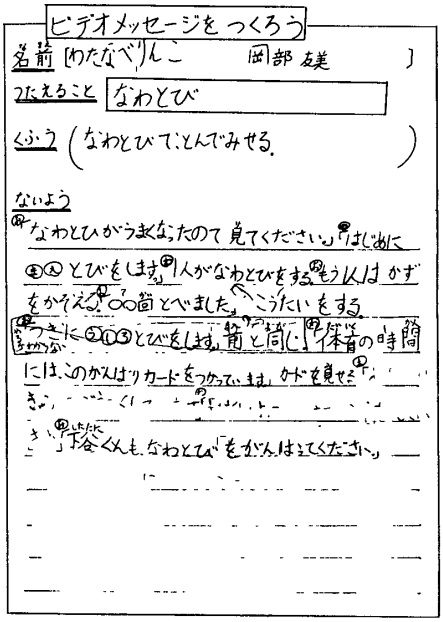
撮影の時のクループ

○	あやとひ
◎	てきごと
◇	てつぽう
□	なわとひ
	引越し
	紙版画
	九九
	新聞作り
	音楽の歌

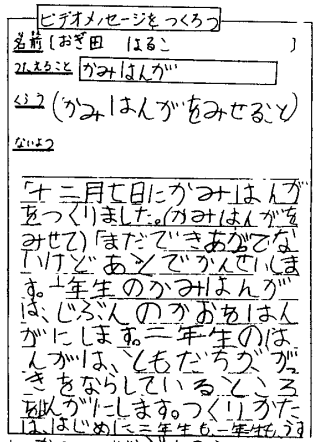
ウ．メッセージ作り……第二次２時～５時

前時で話し合ったグループに分かれ，それぞれメッセージを作った。見通しを持たせるため，「伝えること」「工夫」「内容」をメモさせ，それぞれ必要なものを用意したり練習した後，撮影に入った。撮影は，伝える方に重点を置いたため教師が行ったが，回を重ねれば児童にも十分可能と考える。

（メモ例１）


ビデオメッセージをつくろう
名前 わたなべりんこ　岡部友美
つたえること なわとび
くふう（なわとびでとんでみせる。）
ないよう
なわとびがうまくなったので見てください。はじめに①②とびをします。1人がなわとびをする。もう1人はかずをかぞえる。○○回とびました。こうたいをする。
つぎに①②③とびをします。前と同じ。体育の時間には、このかんばりカードをつかっています。カードを見せる。
最後に谷くんもなわとびをかんばってください。

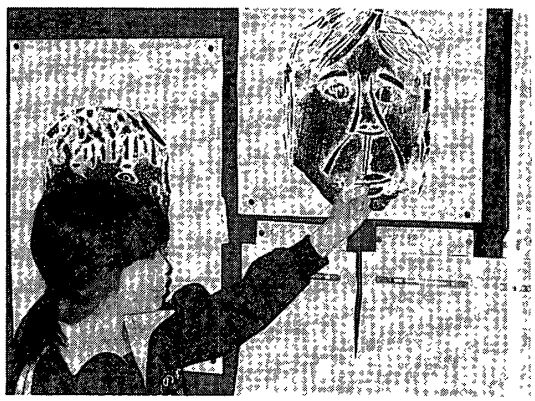
（メモ例２）


ビデオメッセージをつくろう
名前 おぎ田 はるこ
つたえること かみはんが
くふう（かみはんがをみせること）
ないよう
十二月七日にかみはんがをつくりました。（かみはんがをみせて）まだできあがってないけどあとでかんせいします。1年生のかみはんがは、じぶんのかおをはんがにします。2年生のはんがは、ともだちのかきをならしているところをはんがにします。つくりかたは、はじめに2年生も1年生もいかみでじぶんのえやともだちのえをかいてのようにえをみながら目やはな口やかみのけをつけて口ーラでぬってできあがりです。

子どもたちは，考えてメモはしたものの，実際には撮りながら，よりよいものに変えていくことが多かった。

例えば，メモ例２の紙版画は，よくわかるように実際に作りながら説明をするように変えていった。撮ってもらったもののどうも思うようにいかないため，撮り直しを頼んできたグループもあった。活動しながらよりよいものを作りあげていこうとする意欲が見られた。

また，子どもたちは伝えたいことばかりでなく，どこかに自分らしさを出しておきたいということで，最後のポーズをいろいろ工夫していた。



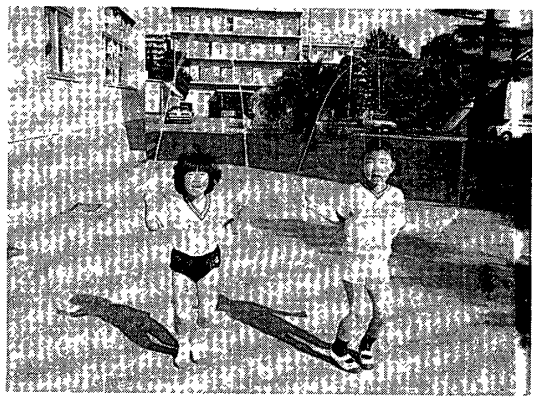
「これはだれかわかりますか？」

その後，お互いのメッセージを鑑賞した。多少緊張しながら活動している自分達の姿が，面はゆそうであったが，満足したようであった。

エ．メッセージを送る。……第三次

メッセージは作ったものの，このままでは，友だちの所へは届かない。みんなでどうやって届けようか考えた。

- 郵便局の小包で送る。ゆうパック
- 宅急便で送る。ペリカン便，ヤマトの宅急便
- 美しく放送して送る。包み紙，リボン



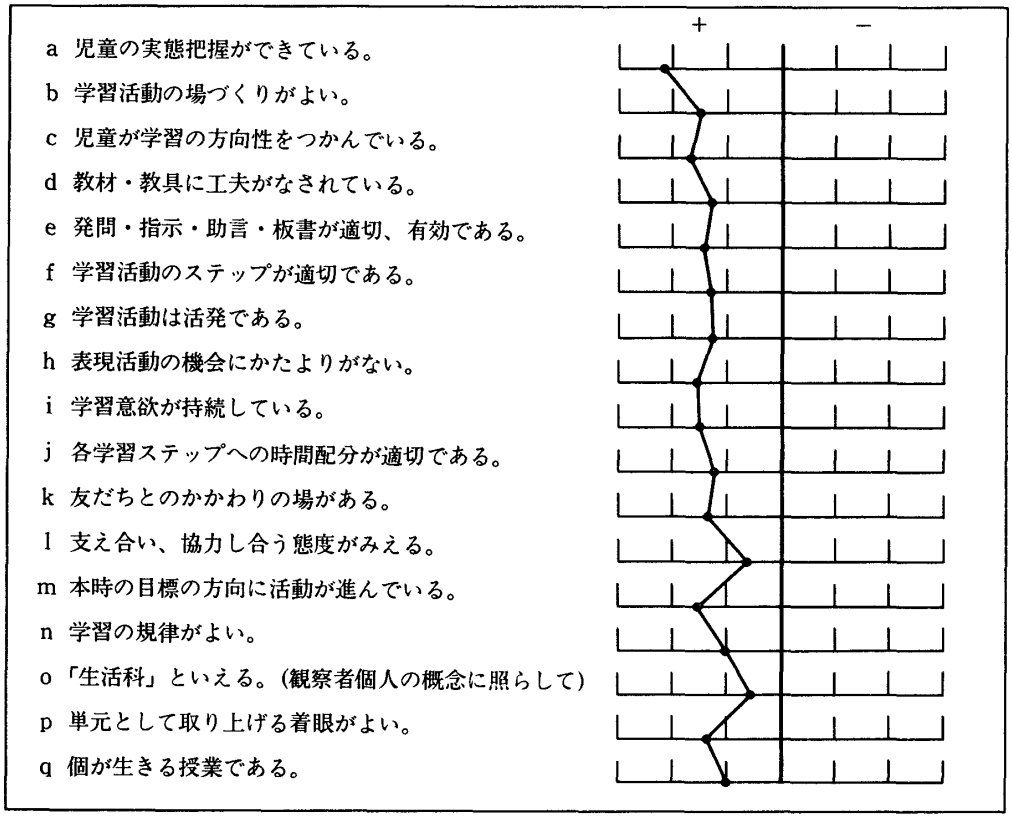
「なわとびも上手になったよ！」

速く確実に届くということで黒ネコヤマトの宅急便を使うことになり，どこにあるか場所をみんなで探した。その結果，家の近く，学校の近く，店の中，いろんな所に宅急便を扱う所があり，看板や旗が目印になっていることがわかった。その中で学校から一番近い店へ，

全員で持っていき，発送した。

(3) 実践の分析（研究授業を中心に）

① 授業観察の記録のまとめ（プロフィール）



② 授業分析の観点とその考察

1）ビデオメッセージの着想は効果的であったか。

∘ビデオメッセージを作るということを核にすることにより，話し合いの活動・表現活動（言語による表現・身体を通した表現，文字や絵による表現など）・送り方を工夫する活動と，幅広い活動を構成することができるから効果的である。

2）指導上の手だてに工夫が必要ではないだろうか。

∘イメージを膨らませる方法として，

ア．その場にカメラをセットし実際に写す。

イ．教師のメッセージを録画しておき VTR でみせる。

ウ．前時の段階で「これをやりたい」という意識の明確な児童に実際にやらせて録画しておく。

エ．教室内に大きな枠を設定しておき，その枠の中で実際に活動させる。

などの工夫があってもよかった。

3）児童の実態が生かされていたか。

∘予想通りの反応が多かったことを考えると，よく把握されていたといえる。

4）学級活動？　生活科？

∘例えば「入院した級友にお見舞いをしよう」ということを，これまでも学級会活動でやってきている。本時の活動が生活科であるという決定的な決めては何なのであろうか。

∘学級活動の内容は，偶発的であることが多く児童の願いを実現させることにあるのに対して，生活科は計画的であり児童につけたい力を予め分析して授業を構成するところに

あるのではないだろうか。

(4) 実践をふりかえって

今回の実践が生活科か否かということが，授業分析の観点の一つとなったが，今回の授業は，新指導要領（案）生活科の目標「具体的な活動や体験を通して，自分と身近な社会や自然とのかかわりに関心をもち，自分自身や自分の生活について考えさせるとともに，その過程において生活上必要な習慣や技能を身に付けさせ，自立への基礎を養う。」に合うものだと考える。それは，この活動を通して，人間にとって必要不可欠な，「伝達する」「協力する」という技能を身に付けることができるからである。また内容としては，第2学年の(1)「自分たちの生活は……手紙や電話などで必要なことを伝えたりするとともに，人々と適切に応対することができるようにする。」に関連している。

ということで，全体のねらいとしては適切にものであったと考えるが，研究授業の中で，グループ作りに時間を費やしたのは，効果的ではなかった。むしろ，すぐにメッセージ作りに入り，子ども達の試行錯誤をより大切にすべきだったと考える。形にとらわれるのではなく，子どもの活動そのものに目を向けていくことが，生活科にとって必要だからである。

第94回研究会において公開した五つの事例　昭和63年6月10日～11日

単元名	ねらい	活動の概要	指導者
（第1学年） じぶんだけのきをつくろう	○入学記念樹を調べ，学校の一員であることを自覚させる。 ○みんなの木があることにより，学校生活を楽しくする。 ○自分の木をみんなに知らせることができる。	◦自分達の植えた記念樹を確かめる。6年生には，一人一人に自分の好きな木があることを知る。ぼくたちも，校庭を探し回って，自分の好きな木を決めて，みんなに知ってもらいたい。	弘法　泰英
（第1学年） しののめしょうがっこうをたんけんしよう	○校生活に必要な場所や施設が分かり，生活空間を広げる。 ○調べたり，みつけたものを絵や文で表現する。 ○みつけたものを進んで人に話すことができる。	◦給食室，売店，図書室等学校には，楽しそうだったり，便利だったりするものがいろいろある。学校中を探し回って見つけよう。見つけたことをみんなに知らせよう。	吉浦　公子
（複式低学年） 気もちのよい教室にしよう	○気持ちの良い教室をつくる心を育てる。 ○ダイナミックに描いたり，飾ったりする楽しさを味わわせる。 ○協力してやりとげる力を育てる。	◦わたしたちの教室には，大きな窓がたくさんある。あの窓に色をつけたり好きな絵を描いたりすれば楽しいな。力を合わせて気持ちのよい教室をつくろう。	中神　裕子
（第2学年） おさんぽ	○身のまわりの生き物と触れ合わせ親しみを持たせる。 ○生きものをさがしたり，とらえたりする創意工夫の力を育てる。 ○グループ活動を通して，役割や協力の態度を育てる。	◦あたたかくなってきた。おさんぽの時に生き物を見つけたよ。校庭には多くの生き物がいるよ。みんなで「生き物さがし」をしよう。そして，飼って育てたり遊んだりしよう。	真田美智子
（第2学年） わたしとつたえるもの	○友だちと協力して伝え合う活動の楽しさを体験させる。 ○自分たちの身の回りにある情報やその手段に関心を持たせる。 ○伝えることや伝える物を工夫して作る力を育てる。	◦遠く離れたところにいる友だちに言いたいことを声のほかに伝える方法はないだろうか。合図，動作，音，文字いろいろありそうだ。みんなで「つたえっこ」ゲームをしよう。	檀上　健二

6．生活科の実践と今後の課題

本校におけるこの一年間の生活科実践の一部を紹介してきたが，その中で学んだ今後の課題について，三つの視点からまとめる。

(1) 授業イメージの転換

生活科指導者と意識について「教師が予定している結論に到達することを急ぐのではなく，個々の子どもの個性的な活動を重視し，いく通りもの見方や考え方，感じ方そして活動のし方が子どもから出てくることを尊重したい。」と述べた。また，「目標先行型の授業から教材優先型の授業への意識転換を図りたい。」とも述べた。生活科には，「教科」ではあるが，これまでの教科指導のあり方への反省から生まれて来た新しいタイプの教科という側面がある。これまでの教科指導においては，意図的，計画的に組織された効率のよさや一つの目標についての全員の深まりが大切にされて来た。生活科も学習指導である以上，意図的，計画的な学習活動ではあるが，その活動の中で子どもが生み出した意志や感情を確認し認めていくのである。むしろ，活動を見守る教師こそが「学習者」であると言える。生活科学習において，「何を学習しているのかよくわからない。」という声を耳にする。狭い指導観で観るからみえてこないのである。教師は，しっかり，たくさん教えようとする。生活科においては教えようとすることはむしろ「生きる力」をつみ取ることにもなる。効率的で無駄のない授業イメージよりも，すき間はあっても子どもたちが教師の意図を超えて動き，広がりのある授業イメージが求められている。このような転換こそが生活科の要諦であろう。

(2) 子どもの価値観を重視した学習づくり

教師は，子どもに対して親切である。子どもたちが虫を捕えに出かけようとすると，「ちょっと待って，道具は？どこへ行くの？」などの知恵を与えようとする。しかし，子どもたちは，障害や失敗を乗り越えて伸びていく。教師は，用意周到であるが，それを初めから子どもたちに押し付けてはならない。子どもたちは，活動しながら考えているのである。ひとつのテーマの学習活動において，教師が想定した流れや展開には，理にかなった枠がある。しかし，子どもの価値観を軸に学習展開を図るなら，「虫を捕らえに行く」→「失敗する」→「用具を考える」というような活動こそ大切にしなければならない。子どもが，教師の知恵を求めた時にこそ先生の力を示してやればよい。また，どの子も教師が設定した活動の場で意欲的に活動するとは限らない。その時こそ，その子の価値観（興味，関心，生き方）が見える時なのである。教師は，活動のレールを引き過ぎないことである。子どもの「自然さ」を失わせないように学習計画にゆとりを持ちたい。

(3) 総合的な学習活動としての教育効果

本校では，生活科のねらいは「生きる力」（知性と感性の統合）と考えているが，生活科のような総合的な学習活動を計画するに当っては，次の諸点を今後より吟味してねらいの設定や活動の工夫をすることが大切であると考えている。

- その自然や社会を対象にした活動によって，子どもの中に何が育つのか
- 育ったものは，これからの子どもの人間形成にとってどんな意味があるのか
- 対象によって有効な教育効果をもたらすには，どのような場を構成するか
- これまでの評価観の枠組をどう転換していくか

総合的学習に始った新しいタイプの学習づくりは，緒についたばかりである。結論を急ぐことなく私たちの主体性を損うことなく，自らの生活を創造する力の基礎を培う教育のあり方を求めて研究を続けたい。